

「俺が行かう」

新吉は其處で、福助足袋を一足コシマ・キヨに買つて來て貰つた。

晩めしを食つて辻潤が、東京驛まで行つてやると言ふので、一緒に京濱に乗つた。

金縁めがねを掛けた高島素之が、一、二等の待合室に居た。

彼の兄が發狂した時手拭ひを口の中へ押し込んでやらないと、舌を噛み切つて自殺する恐れがある、其のワイフと共力してやつたが手古摺つたと遠藤無水が話したのを思ひ出した。

「君のブラザーも狂人病院で死んだそうだが、君がまずこし愛してやれば」とか新吉はおせつかいな事を言つた。

「今晚は尾行は居ないのか」辻潤が言ふと四邊を見廻してから高島素之は、

「今度創立される新聞の事で大阪まで行くんだ」と言つた。

關取のやうな福田正夫と新居格がやつて來た。

二等の切符を買ふのでまご付いた。

辻潤は新吉をよろしく頼むぜと言ふやうな事を言つて歸つた。